

ネットリサーチDIMSDRIVE  
第312回公開調査  
「医薬品のネット販売」に関するアンケート

2013年10月8日  
インターワイヤード株式会社

インターワイヤード株式会社が運営するネットリサーチのDIMSDRIVEでは、「医薬品のネット販売」についてアンケートを行い、  
 医薬品をインターネットで販売することのメリット、デメリット、購入意向などについてまとめました。

調査は2013年6月7日～6月21日にかけて実施し、  
 DIMSDRIVEモニター8,313人から回答を得ています。

## 調査結果の詳細

<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2013/131008/>

## 調査概要

調査方法	インターネットを利用したアンケート調査				
調査期間	2013年6月7日～6月21日				
調査対象者	DIMSDRIVEモニター 8,313人				
回収方法	DIMSDRIVEのモニターサイトにURL記載(配信なし)				
性別	N	%	年代	N	%
男性	4784	57.5	10代	32	0.4
女性	3529	42.5	20代	388	4.7
			30代	1409	16.9
			40代	2564	30.8
			50代	2245	27.0
			60代	1212	14.6
			70代以上	463	5.6

## CONTENTS

- 7割の人が、「自宅から10分以内」の距離で医薬品が購入可能
- 医薬品を選ぶときは「効き目の強さ」「1日に飲む回数」をチェック
- 医薬品の「第一類」「第二類」「第三類」...分類の存在を知らない人が2割
- 医薬品ネット販売、「賛成」4割、「反対」1割
- ネットで医薬品を購入したい？ 購入意向者は5割、意見分かれる
- 医薬品のネット販売、「自分にメリットあり」...4割
- メリットは「曜日や時間を問わず」「近くに店舗がなくても」「恥ずかしくない」
- 不安点は「偽物や違法な商品が出回るのでは」「誤った判断をしまいそう」
- どんな薬をインターネットで購入したい？ 種類別 購入意向
- 商品名を知らない・使用経験のない医薬品は購入に抵抗あり

## 調査項目

- ・市販医薬品 購入状況(購入頻度、購入場所、普段購入医薬品)
- ・医薬品を買える店舗までの距離
- ・市販医薬品 購入時のチェック項目
- ・市販医薬品、第一類～第三類(分類の認知・自身使用医薬品の該当認知)
- ・市販医薬品のネット販売: ネット販売への賛否
- ・市販医薬品のネット販売: ネットでの購入意向
- ・市販医薬品のネット販売: 不安度
- ・市販医薬品のネット販売: 自分へのメリット度合
- ・市販医薬品のネット販売: 予想するメリット、デメリット
- ・市販医薬品のネット販売: どんな薬を購入したい？
- ・ネットで購入しやすい医薬品、抵抗のある医薬品

## 7割の人が、「自宅から10分以内」の距離で医薬品が購入可能

### ■市販の医薬品 購入頻度

50代までは、男性よりも女性の方が医薬品購入頻度がやや高い。家族が使用する薬を購入するためではないかと考えられる。70代以上については、男性の方が購入頻度が高く、『月に1回以上』購入する割合は男性15.9%に対し、女性は3.7%と低い。

『月1回以上』の値が最も高いのは、【30代女性】で18.4%である。

### ■医薬品を買い求める最寄店舗までの距離

71.6%の人が「自宅から10分以内」の場所に、医薬品を購入できる店舗があると回答している。多くの人が、それほど時間をかけずに医薬品を入手できるようである。

一方で『31分以上』の距離にある人は3.1%、うち1.2%は「地域に医薬品を買い求める店舗はない(離島など)」と回答している。

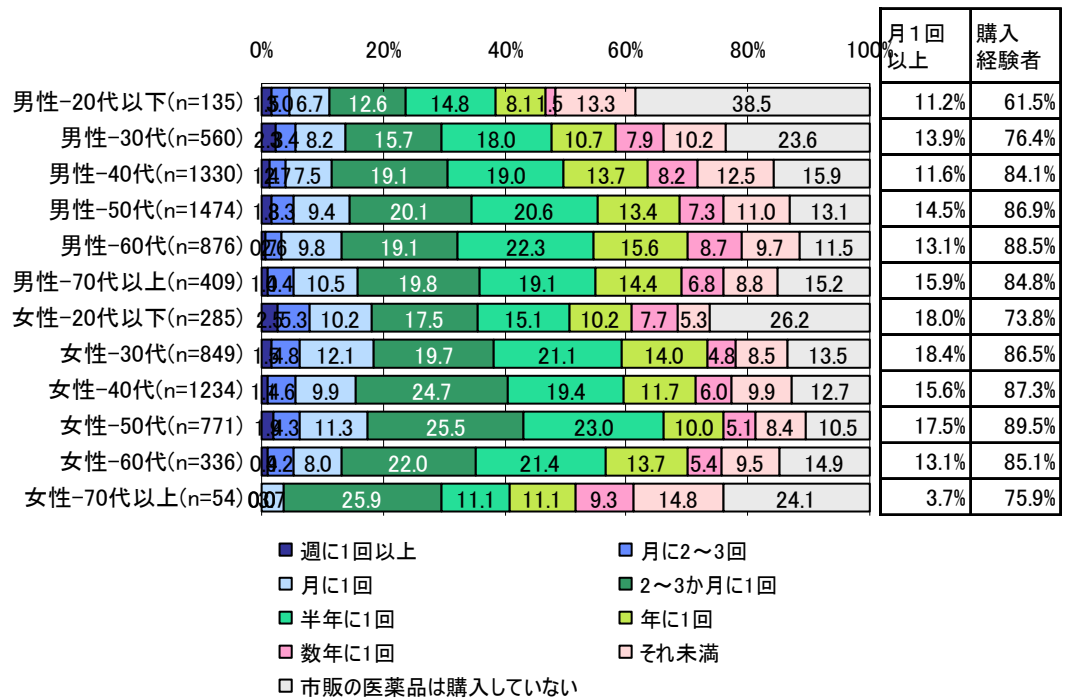
回答者: 全員

N=8,313

あなたは、どのくらいの頻度で「市販の医薬品」を購入していますか。(単一回答)

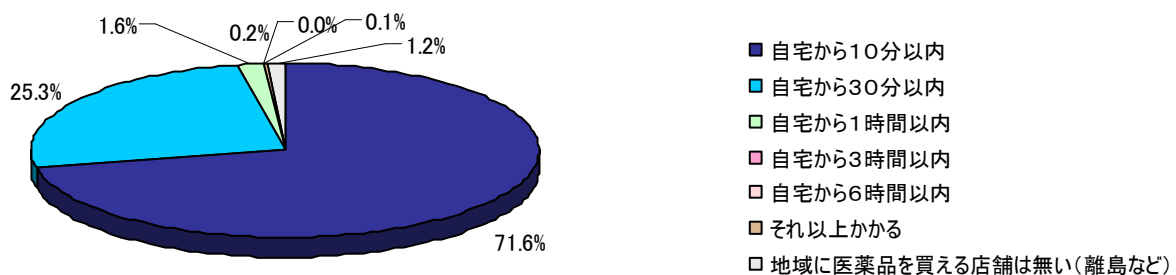
※病院で処方される薬や、薬局で調剤してもらう薬は除きます。

※「医薬部外品」、「化粧品」は除きます。



あなたのご自宅の最寄りの「医薬品を買い求める店舗(薬局・ドラッグストアなど)」は、どのくらいの近さにありますか。(単一回答)

(普段お使いの交通手段でお答えください)



■市販の医薬品 購入場所

市販の医薬品を購入する場所については、「ドラッグストア(調剤カウンター有)」56.7%、「ドラッグストア(調剤カウンターなし)」54.9%が圧倒的であった。調剤カウンター有無に関わらず『ドラッグストア』で購入している人は6614人で93.5%に上る。

「薬局」で購入する人は15.2%、「病院・医療機関」から購入する人は5.1%である。

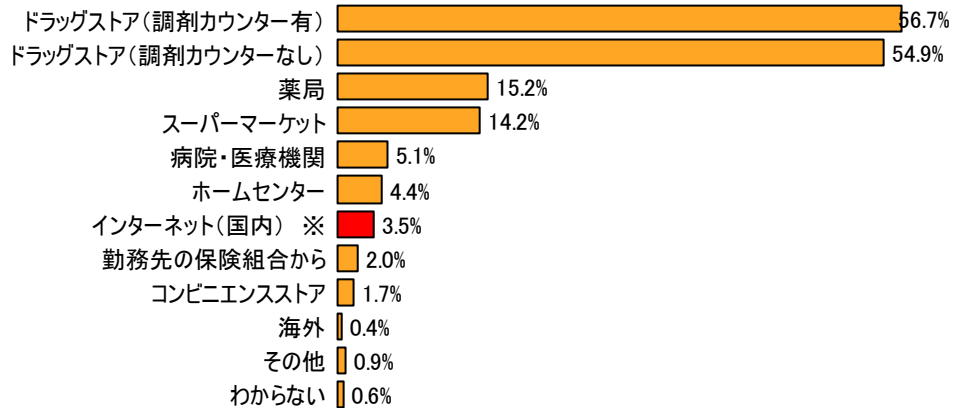
「インターネット(国内)」と回答した人は3.5%で、僅かではあるが(正式にネット解禁前の)現在もネットで購入している人がいることがわかった。

回答者: 医薬品購入経験者

N=7,071

「市販の医薬品」について、ふだん、どこで購入していますか。(複数回答)

※「インターネット(国内)」・・・販売しているサイトも多くありましたが、2009年に改正された薬事法では禁止されています。



医薬品を選ぶときは「効き目の強さ」「1日に飲む回数」をチェック

■市販医薬品 選択時にチェックする点

市販の医薬品はどのような基準で選ばれているのか。選ぶ際に意識していること、チェックしていることを尋ねた。

最も多かったのは「効き目の強さ・緩やかさ」で36.3%、次いで「1日に飲む回数」27.2%、「錠剤・カプセル・顆粒などの形状」27.0%、「副作用について(有無・強さなど)」24.6%、「メーカー名」24.1%と続いた。

「効き目の強さ・緩やかさ」については多くの人チェックしているが、効き目の基になる「使用成分」をチェックする人は19.2%と2割、「成分の含有量」は13.6%と、内容まで詳細に確認する人はやや減少することが分かった。

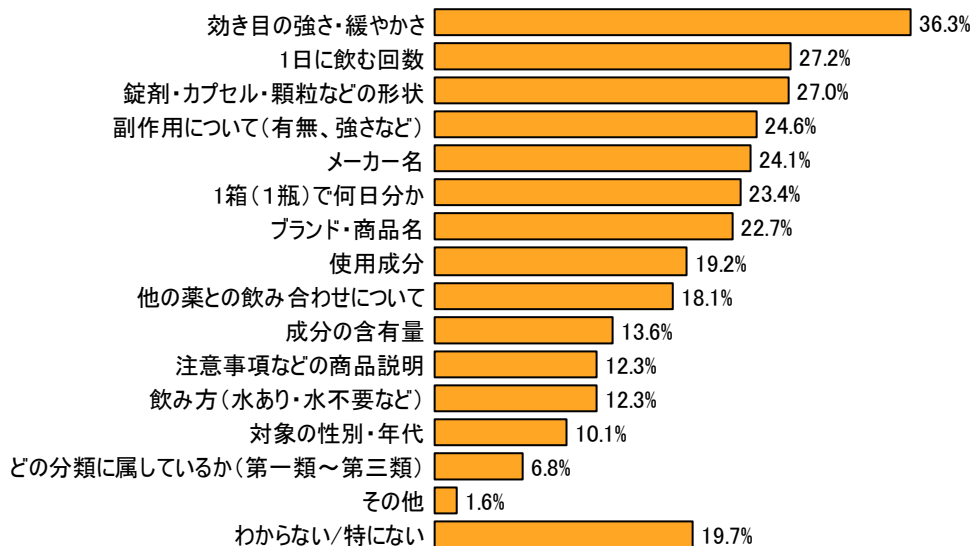
「どの分類に属しているか」をチェックする人は6.8%と、少ない。

回答者: 医薬品購入経験者

N=7,071

「市販の医薬品」について、購入する薬を選ぶ際に、「意識していること」「チェックしていること」は何ですか。(複数回答)

(商品価格は除く)



## 医薬品の「第一類」・「第二類」・「第三類」…分類の存在を知らない人が2割

### ■市販医薬品 分類の認知

市販の一般用医薬品について、第一類～第三類の区分有無、その基準などの認知を尋ねた。

「薬に「第一類医薬品」・「第二類医薬品」・「第三類医薬品」の分類が存在することを知らない」と回答した人は19.7%で、2割の人は分類の存在を知らないことがわかった。また「一部の分類しか聞いたことが無かった」人は10.3%である。  
『第一類～第三類まである事を認知している人』は70.0%と7割である。

「販売可能な資格や情報提供、リスクでの分類など、詳しく知っている」人は5.9%と少なかった。

### <“3つの分類を認知している割合” 性年代別>

基準はともかく、第一類～第三類の3つの分類を知っている人の割合を見てみると…

男女とも60代以上の年代では認知度が他の年代よりも低い。  
40代以外のすべての年代で、【男性】の方が【女性】よりも認知率がやや高い。

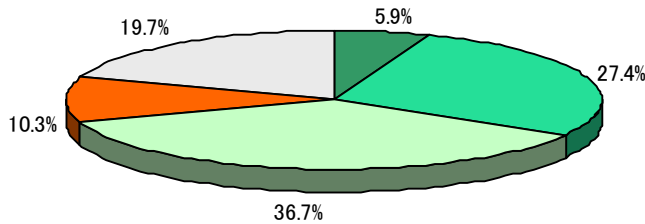
【20代女性】については、「詳しく知っている」人が他年代の女性よりも多い一方で、「一部の分類しか聞いたことがなかった」という人も多い。

回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

市販の一般用医薬品は、下記のように分類されています。  
あなたは、下記の分類についてどのような違いがあるかをご存知ですか。（単一回答）

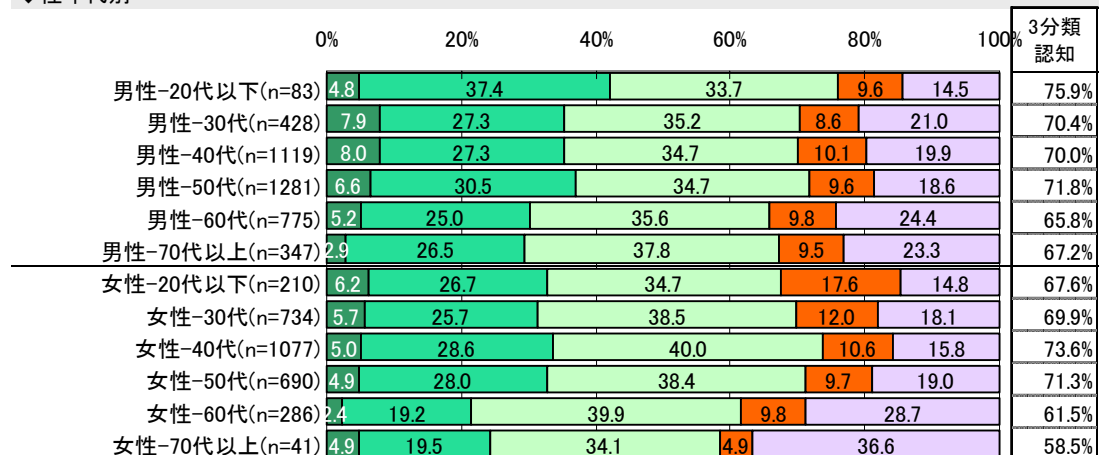
### 「第一類医薬品」・「第二類医薬品」・「第三類医薬品」



分類の存在 認知者…70.0%

- 販売可能な資格や情報提供、リスクでの分類など、詳しく知っている
- リスクや販売方法によって分けられていることは知っているが、内容は詳しく知らない
- 分類されていることは知っているが、どのような基準で分類されているかは知らない
- 一部の分類しか聞いたことが無かった
- 薬に「第一類医薬品」・「第二類医薬品」・「第三類医薬品」の分類が存在することを知らない

### ◆性年代別



- 販売可能な資格や情報提供、リスクでの分類など、詳しく知っている
- リスクや販売方法によって分けられていることは知っているが、内容は詳しく知らない
- 分類されていることは知っているが、どのような基準で分類されているかは知らない
- 一部の分類しか聞いたことが無かった
- 薬に「第一類医薬品」・「第二類医薬品」・「第三類医薬品」の分類が存在することを知らない

### ■使っている医薬品の区分認知

回答者が購入・使用している市販医薬品について、“第一類～第三類のどの区分に所属する医薬品か”の把握状況について尋ねた。

いずれかの薬について把握している人は56.2%と半数強であり、「全ての薬について、知っている」は3.2%と僅かである。

「だいたい知っているが、知らない薬もある」16.7%、「知っている薬もあるが、知らない薬の方が多い」36.3%と続き、把握している薬とそうでない薬がある人が多い。

「知っている薬は1つも無い」という人は22.8%、さらに「薬に～の分類が存在することを知らない」と回答した人も19.7%と2割存在。

『全く把握していない』人が4割に上る…という事がわかった。

### <”いずれかの使用薬について把握している割合” 男女別・性年代別>

◆男女別 男女の把握度はほぼ同じで、男性56.2%、女性56.1%である。

◆性年代別 男女とも60代以上の年代では把握度が他の年代よりも低く、特に女性の60代・70代以上は半数を割っている。(45.8%、48.7%)

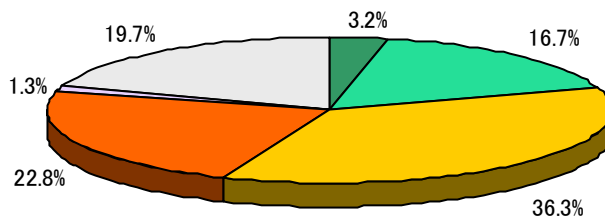
※グラフは省略

回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

あなたが購入・使用している「市販の医薬品」について、その薬が

「第一類医薬品」・「第二類医薬品」・「第三類医薬品」のどれに該当するかをご存知ですか。(単一回答)



いずれかの薬(使用している薬)について  
区分を把握している…56.2%

- 全ての薬について、知っている
- だいたい知っているが、知らない薬もある
- 知っている薬もあるが、知らない薬の方が多い
- 知っている薬は1つも無い
- 分類される前(2009年の薬事法改正前)に購入した薬しか持っていない
- 薬に「第一類医薬品」・「第二類医薬品」・「第三類医薬品」の分類が存在することを知らない

## 医薬品ネット販売、「賛成」4割、「反対」1割

### ■ネット販売の 賛否

“医薬品をネット販売すること”に対しては「賛成」42.5%、「反対」10.4%で、賛否については賛成派の方が多かったが、「どちらとも言えない」という人も41.0%と多い。

『賛成できる面もあるが、懸念もある』という人も多いのではないかとと思われる。

### <医薬品 購入頻度別>

購入頻度が高いほど「賛成」の値が高く、【月1回以上】の人では49.0%と半数に上る。普段ほとんど医薬品を買わない【数年に1回未満】の人は、「わからない」と回答した人が12.2%と1割を超えた。

### <薬の分類 認知度別>

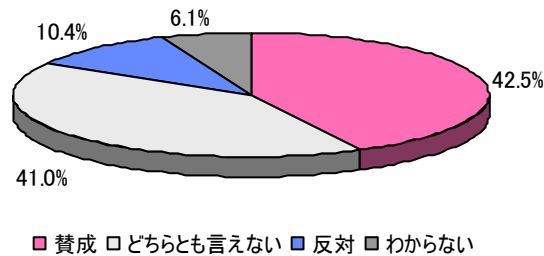
分類について詳細に知っている人ほど、「賛成」の値が高く、【詳しく知っている】人では52.5%である。

回答者：医薬品購入経験者

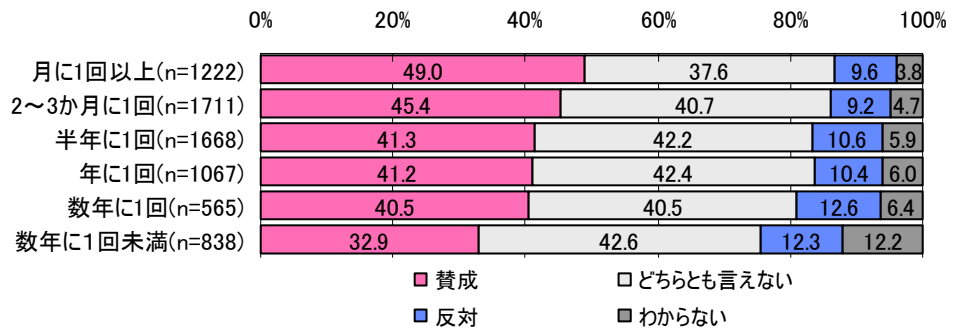
N=7,071

「市販の一般医薬品」のインターネット販売が解禁になったことについて、あなたご自身はどのように考えますか。(単一回答)

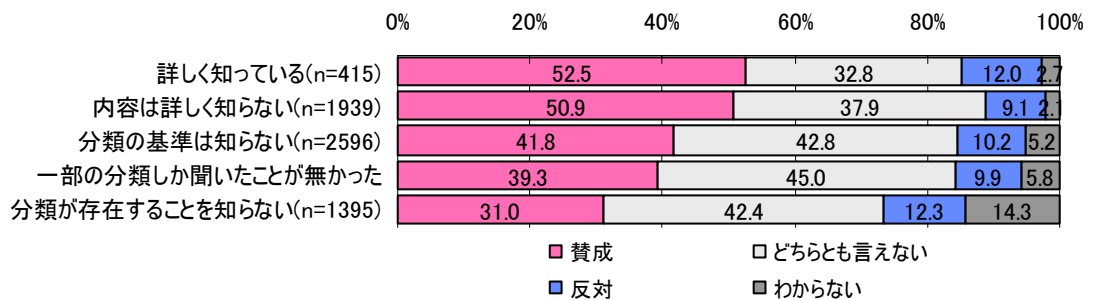
① 医薬品をインターネットで販売することについて、どのように思いますか。(単一回答)



### ◆医薬品購入頻度別



### ◆薬の分類 認知度別



ネットで医薬品を購入したい？ 購入意向者は5割、意見分かれる

■ ネットでの医薬品購入意向

“ネットでの医薬品購入意向”については、「ぜひ購入したい」は12.2%と積極的な意向者は1割強である。「機会があれば購入したい」38.9%を含めた「購入意向者」は51.1%と半数であった。

一方、「購入してもよいが、できれば従来の方法で購入したい」人は23.3%、「インターネットでは購入したくない」人は17.9%と、ネット購入の意向がない人も41.2%と多く、購入意向については、意見が分かれる結果となった。

< 医薬品 購入頻度別 >

購入頻度が高いほど意向が高い。

< 最寄り薬購入可能店舗までの距離別 >

「ぜひ購入したい」という積極的な意向者は、【自宅から31分以上(に最寄店舗がある人)】で値がやや高く、17.1%である。普段入手しにくい環境にあるためか、積極的な意向が見られる。

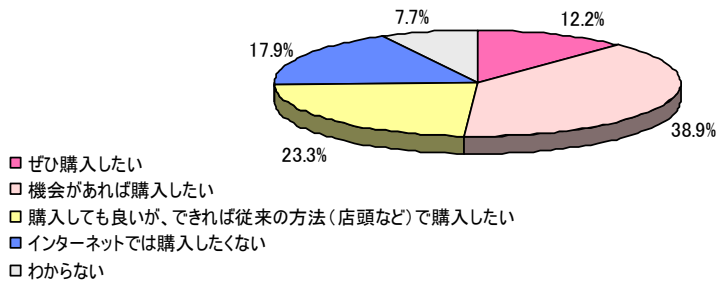
< 男女別 >

男性の方が購入意向が高く、【男性】54.6%、【女性】46.3%であった。

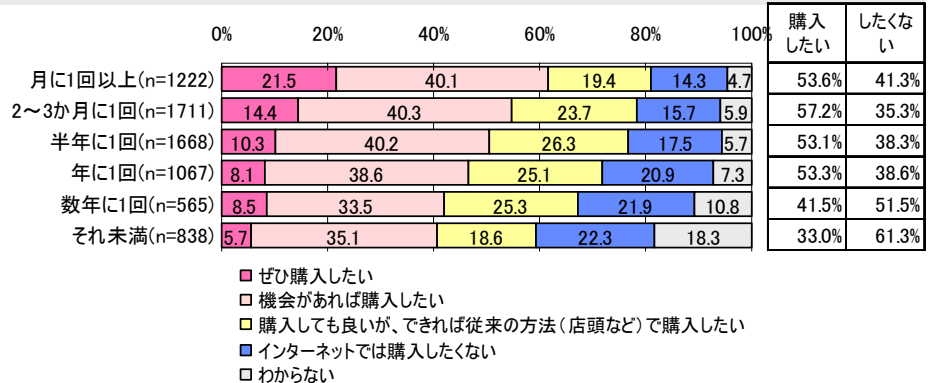
回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

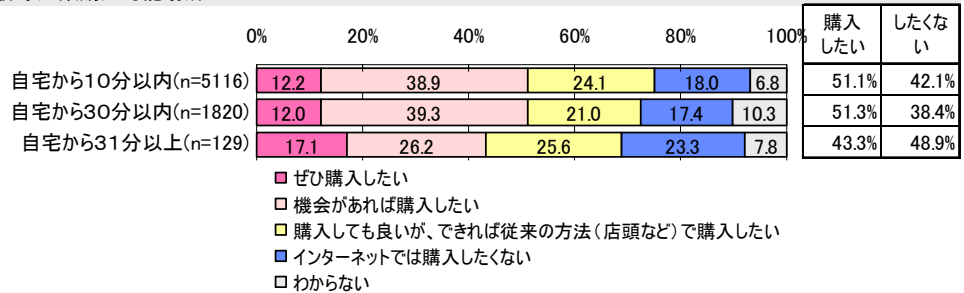
② 今後、インターネットで医薬品を購入したいと思いますか。(単一回答)



◆ 医薬品購入頻度別

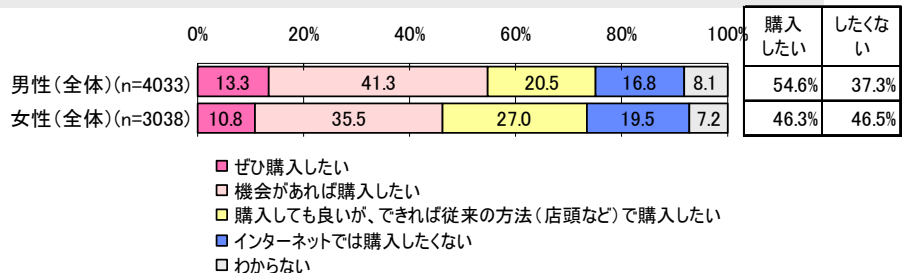


◆ 最寄り薬購入可能場所



※「地域に医薬品を売れる店舗は無い(n=6)」はN数が少なすぎるため、グラフ除外

◆ 男女別





医薬品のネット販売、「自分にメリットあり」…4割

■ネット販売 自分へのメリット

“医薬品のネット販売”について、自分にメリットがあるかどうかについては

「かなりメリットがある」14.0%、「少しメリットがある」26.1%と、『メリットがある』と回答した人は4割であった。一方、「あまりメリットはない」18.9%、「全くメリットはない」6.6%、「逆にデメリットがある」2.6%と、『メリットはない、またはデメリットがある』という人は28.1%であった。

メリットがあると感じる人の方が多い。

<医薬品 購入頻度別>

購入頻度が高いほど、メリットを感じる割合は高く、『メリットがある』人は52.1%と半数を超える。

<男女別>

『メリットがある』と感じる人は、【男性】41.7%、【女性】37.9%で、男性の方がややメリットを感じる割合が高い。

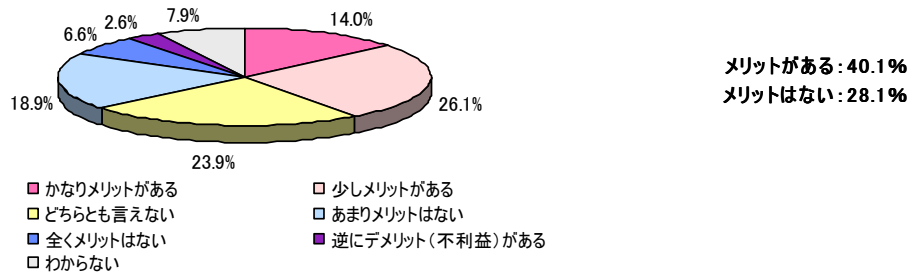
■医薬品ネット販売への不安度

“ネット販売そのものに対する不安”、“自分が医薬品をネットで購入する際の不安”、どちらも『不安』と回答した人は37%であった。4割弱が不安を感じている。

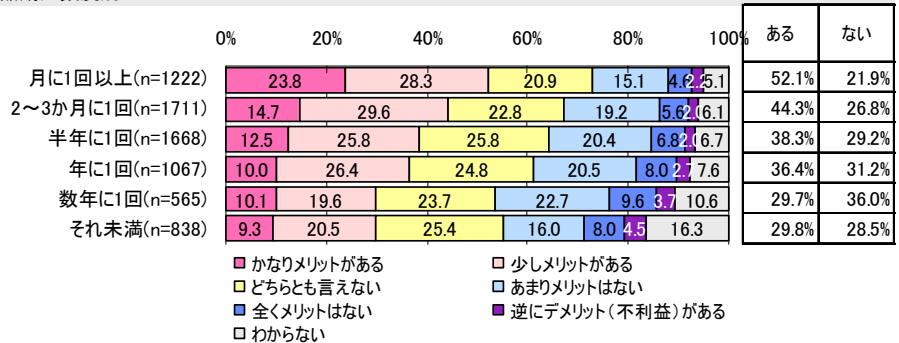
回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

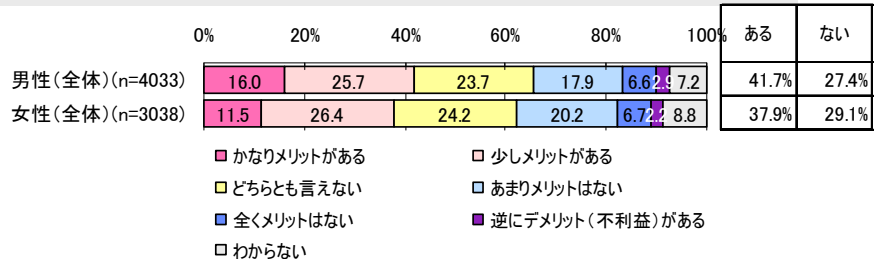
③インターネットで医薬品を購入することについて、あなたご自身にとっては、メリット(利点)があると感じますか。(単一回答)



◆医薬品購入頻度別



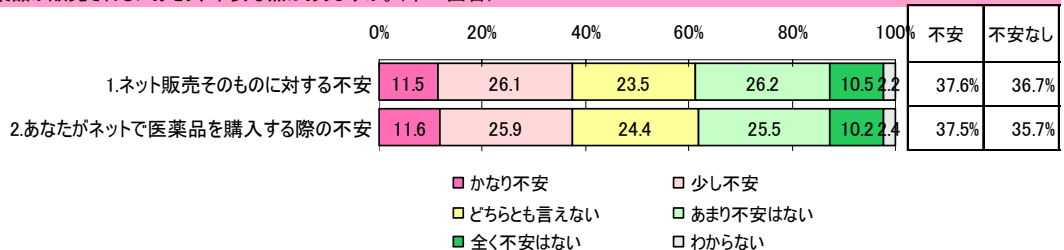
◆男女別



回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

④インターネットで医薬品が販売されるにあたり、不安な点はありますか。(単一回答)



## メリットは「曜日や時間を問わず」「近くに店舗がなくても」「恥ずかしくない」

### ■ネット販売のメリットとは？

“医薬品のネット販売”について、メリットと思われる点を尋ねた。

最も多かったのは「曜日や時間を問わずに、くすりを注文できる」64.2%、「薬局・ドラッグストアが近くに無い人も購入できる」53.1%と続き、『医薬品の入手が出来ない状況を解決できる』点にメリットを感じる人が多いようである。

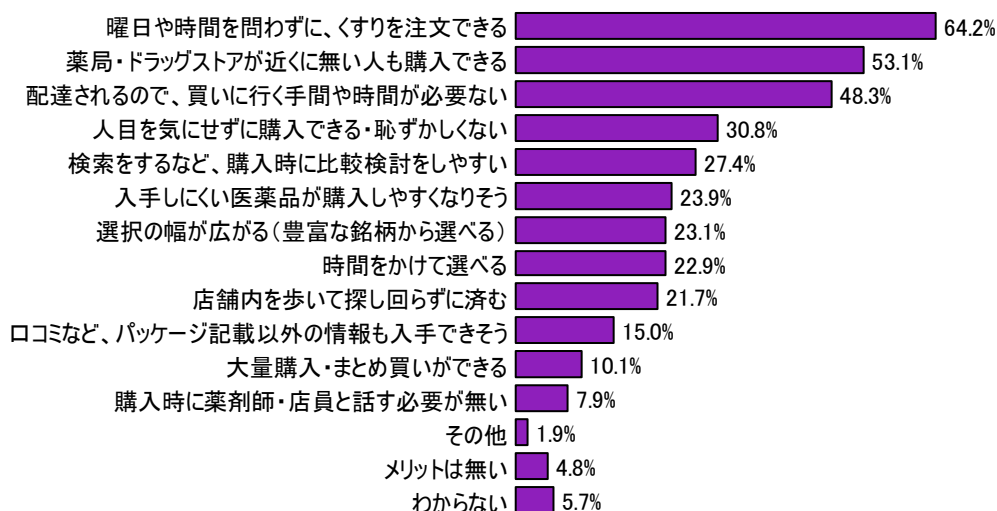
また、「人目を気にせず購入できる・恥ずかしくない」と回答した人は30.8%で、人目につかず購入できる点にメリットを感じる人も多い。

「口コミなど、パッケージ記載以外の情報」に期待する人は15.0%と、それほど多くはなかった。

回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

「市販の一般医薬品」のインターネット販売が解禁になったことについて、メリット（利点）があるとすればどのようなことだと思いますか。（複数回答）



## 不安点は「偽物や違法な商品が出回るのは」「誤った判断をしまいそう」

### ■ネット販売の不安点・デメリットは？

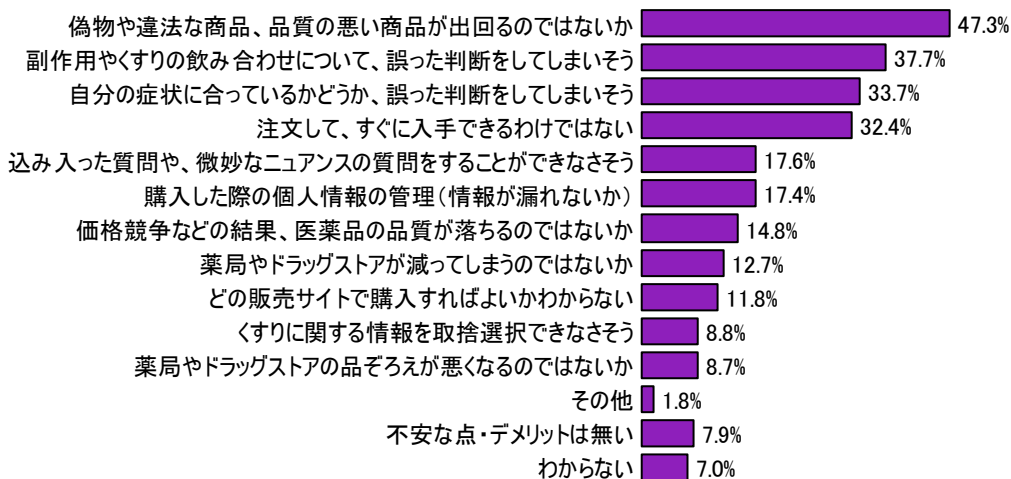
一方、不安やデメリットについて最も多かったのは「偽物や違法な商品、品質の悪い商品が出回るのはないか」47.3%であった。

次いで「副作用やくすりの飲み合わせについて、誤った判断をしまいそう」37.7%、「自分の症状に合っているかどうか、誤った判断をしまいそう」33.7%と続き、『個人で正しく判断できるかどうか』に不安を抱く人が多いことがわかった。

回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

「市販の一般医薬品」をインターネットで購入するとした場合、不安な点・デメリットがあるとすればどのようなことだと思いますか。（複数回答）



## どんな薬をインターネットで購入したい？ 種類別 購入意向

### ■薬の種類別、ネット購入意向

下記表は、“現在(実店舗で)購入している医薬品”と“今後、インターネットで購入したい医薬品”の値を比較したものである。

【かぜ薬】や【目薬】・【胃腸薬】・【頭痛薬】・【かゆみ止め】などの”一般的な症状に対する医薬品”については、「ネットで購入したい」意向は現在の購入状況に比べて低い。

それ以外の医薬品については、「ネットで購入したい」という、意向の方が値が高くなっている。

回答者：医薬品購入経験者

N=7,071

「市販の医薬品」は、どのような種類のくすりを購入していますか。(複数回答)

もし、「市販の一般医薬品」をインターネットで購入するとしたら、どのような種類のくすりを購入しますか。(複数回答)

	男性 (n=4033)		女性 (n=3038)	
	現在購入している	ネットで購入したい	現在購入している	ネットで購入したい
かぜ薬・感冒薬	61.2	38.1	68.0	31.6
目薬	48.1	29.8	53.8	26.3
胃腸薬・整腸薬	40.7	30.7	40.9	23.9
頭痛薬・鎮痛剤・解熱剤	28.6	20.7	53.9	28.1
かゆみ止め (塗るタイプ)	21.6	15.7	35.4	19.1
湿布薬	17.9	17.8	23.8	19.2
鼻炎・アレルギー薬	16.8	13.0	22.0	12.8
ビタミン剤	16.1	20.5	18.4	21.3
滋養強壮剤・ドリンク剤	12.4	12.7	12.6	9.1
水虫薬	11.6	11.9	4.7	5.6
下痢止め薬	10.0	8.7	11.2	6.2
咳止め・痰止め	9.6	8.3	16.2	8.1
傷薬 (塗るタイプ)	9.0	9.6	13.0	8.0
育毛剤・発毛促進薬	6.0	9.8	1.5	3.5
便秘薬	5.0	6.0	12.9	10.5
口唇炎、口角炎、口内炎治療薬	4.0	4.1	8.5	4.5
痔の薬	3.6	5.4	2.8	4.6
漢方薬	2.9	7.2	4.7	8.6
薬用酒	1.7	3.8	1.8	3.4
にきびの治療薬	1.5	1.6	3.8	2.6
魚の目治療薬	1.5	1.9	2.8	2.4
鎮暈薬 (酔い止め薬)	1.1	2.0	4.6	3.2
坐薬・浣腸	1.1	2.5	1.3	2.5
乾皮症・角化症治療薬	0.9	1.9	1.4	1.6
睡眠改善薬	0.9	3.8	1.4	3.7
肥満防止薬	0.8	3.8	0.9	4.0
膣カンジダ再発治療薬	0.1	0.6	0.8	3.4
妊娠検査薬・排卵予知薬	0.1	0.7	1.9	5.3
その他	1.0	2.0	0.7	1.3
インターネットでは購入しない	-	20.9	-	23.3
答えたくない	2.9	4.4	1.4	2.8

…「ネットで」の方が値が高い

## 商品名を知らない・使用経験のない医薬品は購入に抵抗あり

### ■ 購入しやすい医薬品、抵抗のある医薬品

インターネットで購入に抵抗を感じるのは、どのような医薬品なのか。『抵抗がある』と回答した割合を比較した。

#### ◆ 商品名の認知・使用経験

【名前を知っている医薬品】では4.0%だったのに対し、【名前を知らない医薬品】では62.3%と6割が抵抗を感じる。また、【使用したことがない医薬品】は61.9%と、同じく6割が抵抗を感じている。

#### ◆ 第一類～第三類・ジェネリック

いずれも、『抵抗がある』という人は10%台で、分類による抵抗感に変化はないが、『購入のしやすさ』は、【第一類】よりも【第三類】の方が高い。

#### ◆ メーカー規模

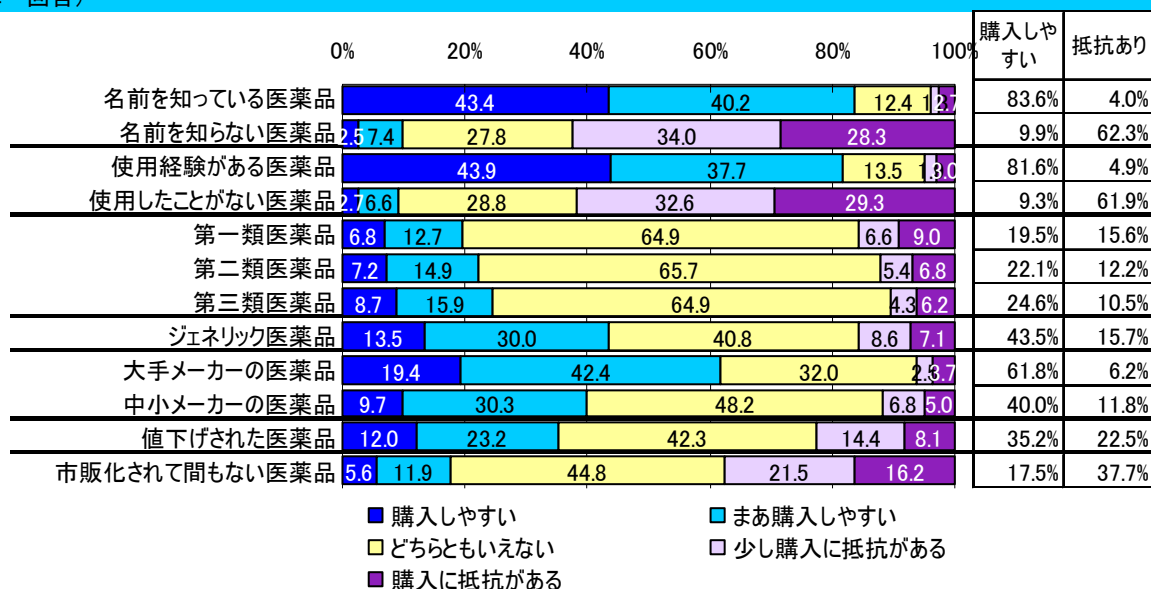
【中小メーカーの医薬品】については『抵抗がある』人は11.8%と1割ほどである。メーカー規模はそれほど気にされていないという事が伺える。

回答者: 医薬品購入経験者

N=7,071

もし、次のような「市販の一般医薬品」をインターネットで購入するとしたら、どの程度購入しやすいですか。

(抵抗なく購入できますか) (単一回答)



### ■ ネットリサーチのDIMSDRIVEについて ■

インターワイヤード株式会社が運営する『DIMSDRIVE』は、全国に18万人のモニターを擁し、インターネットリサーチを通じて調査企画・設計から分析・提案までを提供する、マーケティングのトータルソリューションサービスです。

広告効果測定やライフスタイル分析など、目的に応じた調査でお客様の戦略立案をサポートしています。

◆ DIMSDRIVEホームページ <http://www.dims.ne.jp/>

### ■ インターワイヤード株式会社について ■

<所在地> 東京都品川区東品川2-2-25 サンウッド品川天王洲タワー3F

<TEL> 03-5463-8255

<代表者> 斉藤 義弘

<事業内容> ネットマーケティングリサーチサービス「DIMSDRIVE」運営

### ● 調査結果に関するお問い合わせは ●

インターワイヤード株式会社 DIMSDRIVE事務局(ディムスドライブ事務局)

TEL: 03-5463-8256

Email: [timely@dims.ne.jp](mailto:timely@dims.ne.jp)